



みどりの風

平成26年11月28日発行

校報 第514号

(みどりの風 第57号)

練馬区立関町北小学校

工藤直子さんがやってくる

- 研究発表会を開催します -

校長 大野 泰弘

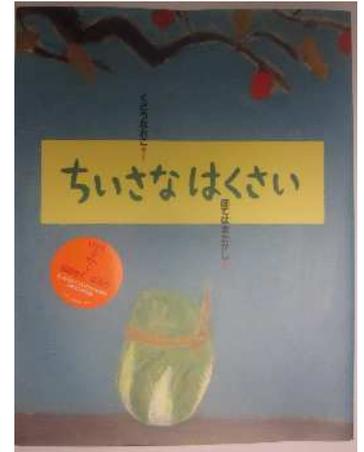
校庭の関北の森の木々の葉が深々と色づき、冬の足音がすぐそこに迫ってきているように感じられます。

さて、冬と申しますと、「白菜」が食卓を飾ることが多いかと存じますが、私の手元に「ちいさな はくさい」という一冊の絵本があります。表紙は右の写真のようになっておりますが、この絵本の作者は、詩人でもある工藤直子さんです(挿絵は保手浜 孝さん)。

この「ちいさな はくさい」という絵本は、昨年の夏に工藤直子さんご自身がプレゼントしてくださったものです。ちょうど、来たる12月18日の研究発表会で記念講演をしていただくことが決まったので、その記念として送ってくださったのです。

では、なぜ本校の研究発表会に工藤直子さんがお越しくださることになったのか、と申しますと、それには次のような経緯があります。

皆様には、去る11月8日の学習発表会で1年生が上演した「のはらうた」の音楽やダンスが記憶に鮮やかに残っていらっしゃるかと存じますが、現在の6年生も一昨年の学習発表会で「のはらうた」を上演しました。この「のはらうた」は、工藤直子さんがお書きになった詩集であることは、多くの方がご存じのとおりです。当時の4年生は、この詩集の中からいくつかを選び、それにふさわしい音楽を作曲するだけでなく、ダンスの振付も考えるなど、とても創意工夫しました。今年度の1年生のかわいらしさとはまた一味違った「のはらみんな」の姿を演じていました。そこで、学習発表会の後、子どもたちに、「今のみんなの気持ちを作者の工藤直子さんにお手紙にして伝えたらどうか」と提示したところ、かなり多くの子どもたちが自発的にお手紙を書いてきてくれました。その中には、満足感からなのでしょう、「工藤さん、ぜひ、一度関北小に来てください」、「工藤さんにも見てもらいたかったです」といったものがありました。一昨年というと、研究発表会をすることは決まっていたのですが、まだ詳細は検討していませんでしたので、2年後にはちょうど4年生が6年生になりますから、子どもたちの思いや願いを実現しようと、工藤直子さんに記念講演をしていただけないのか直接打診してみました。すると、子どもたちのお手紙をお読みになった工藤直子さんから「日程が合えば、ぜひ、子どもたちにお会いしたいですね」というお返事をいただいたので、このたびの研究発表会での記念講演の運びとなったのです。



一人の作家の作品を通して、読み手が感性を養い、創造(想像)力を発揮する。その結果を作者本人に伝えたら、その作者がその思いに応え、会いに来てくださる。このことは簡単なようですが、実はなかなか実現しない、夢のような話です。これがお手紙を通して実現するに至ったということで、きっと現在の6年生の中には、「自分が書いた手紙が、その通りになった」、「まさか、自分が演じた作品の作者に会えるとは思ってもみなかった」等々の感慨をもつ子ども多いのではないかと思います。

そんな工藤直子さんの温かい心に答えるべく、6年生は再び「のはらうた」にチャレンジしています。それは、研究発表会の研究授業の後、わずかな時間ではありますが、工藤直子さんの前で、まさに「子どもの心 詩の世界」を群読という形で表現します。作者と子どもたちの心が一つになる瞬間、それは子どもたちの心の中に、将来にもきっと生きて働く力として残り、ほのぼのとした心の灯火となって輝き続けることでしょう。

研究発表会当日の円滑な運営のために、すでにPTA本部役員の皆様をはじめ、30名の保護者の皆様のご協力をお申し出くださっております。心より御礼を申し上げます。